平成３０年度の研修テーマ

「問いをもって学び合い、まとめをする子ども」

～児童が解決したくなる課題作りと、学び合いのコーディネート～

授業者：教諭　渡邉　茂雄（４年生）

単元名「段落どうしの関係をとらえ、説明のしかたについて考えよう」

教材名「アップとルーズで伝える」考察

本時のねらい

・④⑤段落の「アップ」と「ルーズ」が逆になっていることに気付き、それぞれ伝えられること、伝えられないことを理解することができる。

１　主な活動と児童の様子

＜つかむ段階＞

「課題：写真と文章を比べて、おかしいところはどこですか。」

・「アップ」と「ルーズ」の言葉を逆にした④と⑤段落のみの資料を掲示した。

・子どもたちは、同じ資料を起立して音読した。

・家庭学習で音読を続けてきたせいもあり最初の読みで、すでにおかしいと気付く子が多かった。

・子どもたちは容易に間違いを見付けることができた。

・「アップ」と「ルーズ」が逆になっていることに気付き、３カ所の間違いを訂正することができた。

・子どもたちは、「アップ」と「ルーズ」の違いを、写真と照らし合わせたり、文脈に沿って考えたりすることができた。

＜考えをもつ段階＞

「めあて：ＡとＢの文章は、どこに入るかを考え、理由を二つ以上見付けよう。」

・ＡとＢの文章を切り離し、ワークシートに貼ることができた。（２９人中、２８名が正解）

・理由としては「写真との整合性」「キーワードとなる言葉」「打ち消しの語尾」などがワークシートに書かれた。

＜考えを深める・広げる段階＞

・班で、それぞれの考えを発表し合い、ホワイトボードにまとめるように指示した。

・班長が中心となり、一人一人の意見を丁寧に取り上げていたが、考えをワークシートに書けなかった子がいたため、時間がかかってしまった班があった。

＜まとめの段階＞

・まとめることができた班には、発表の練習をするように指示した。
・代表して、２つの班を発表させた。
・「アップ」と「ルーズ」が伝えられることと、伝えられないことを整理する時間がなく、次時の課題として授業を終えた。

2　成果と課題（○成果　●課題）

（1）学習課題設定のための仕掛け：

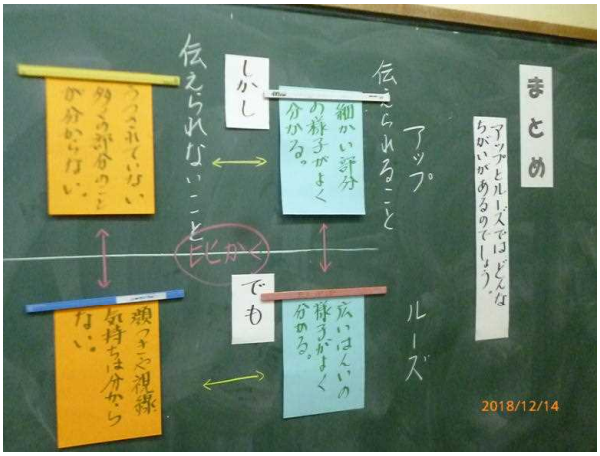
○本学習に入る前から、家庭学習として本教材の音読を奨励してきたことで、子どもたちに違和感を感じさせることができた。

○「アップ」と「ルーズ」の言葉を入れ替えた文章を掲示したことは、子どもたちの問いを生じさせるのに有効であったと言える。

●ＡとＢの文章が、④と⑤段落のどちらに続くか理由を考えさせる仕掛けでは、答えは分かるが、理由をどう書いてよいか迷っている子も多かった。文章力の低い子にも取りかかれるような「写真」や「言葉」など、記述のポイントを示すことも必要だった。それが、班でホワイトボードにまとめるときの観点にもなったのではないかと考えている。

●ＡとＢの文章を考えさせるために、それぞれの文章を切り離して貼り付けるという作業を行った。しかし、子どもたちは、ほとんどが④と⑤段落のどちらにつながるかは分かっていた。学習過程の時間配分において、切り貼りする時間を記述の時間に充てるべきであった。

（2）学び合いのコーディネートについて



○「課題をつかむ」段階では、隣同士の３０秒程度の相談の時間を設定した。課題のつかみがしっかりできていたので、文章の部分を指で示したり、自信をもって話したりすることができた。それによって、自分の考えに自信をもつことができた子が多かった。自信のない子や、授業に消極的な子にとって、意見を確認することは、授業に前向きに取り組む上で重要なポイントだと感じた。

○ホワイトボードにまとめる活動は、３年生から続けているので、司会や書記などの役割分担も早く決めて、子どもたちはスムーズに活動に入ることはできた。さらにまとめ方の例を提示するなど、もう少し方法や視点をそろえるべきであった。

●ホワイトボードにまとめる作業に時間がかかり、まとめは次時に行った。「つかむ段階」から「考えをもつ段階」まで丁寧に進めたことで、子どもたちは「アップ」と「ルーズ」の特徴を理解することに役立った。しかし、まとめの段階で再度確認するのであれば、もう少しスムーズに移行した方がよかった。